

北海道の農業・農村を支える千カラ

北海道農業の現在があるのは

それは、厳しい気候や特殊土壌等に耐えることができる品種の改良や栽培技術を作り上げてきたことと、その農作物を育てるための水田や畑などの土台づくりをしっかりとってきたからです。

北海道と聞いて広大な農地をイメージする人も多いと思いますが、それは北海道に元々あったものではなく、一生懸命に土地や農村環境等の整備（これを「農業農村整備」といいます。）をしてきた結果なのです。

北海道の農業・農村

農業・農村の環境

厳しい気候、特殊土壌、未開墾地、農村の劣悪な住環境、自然災害

農業農村整備

- 農産物の生産性を高めるための整備
- 農村の生活を快適にするための整備
- 農地や農業水利施設を保全するための整備

北海道農業は地域を支える
基幹的な産業へと成長



農業 農村 整備

農業農村整備は、将来にわたって、生命と健康の源である安全・安心な「食」を安定的に供給し、本道の農業・農村が持続的に発展するよう支えていくという重要な役割を担っています。

北海道の農業・農村の今

北海道は我が国最大の食料供給地域に

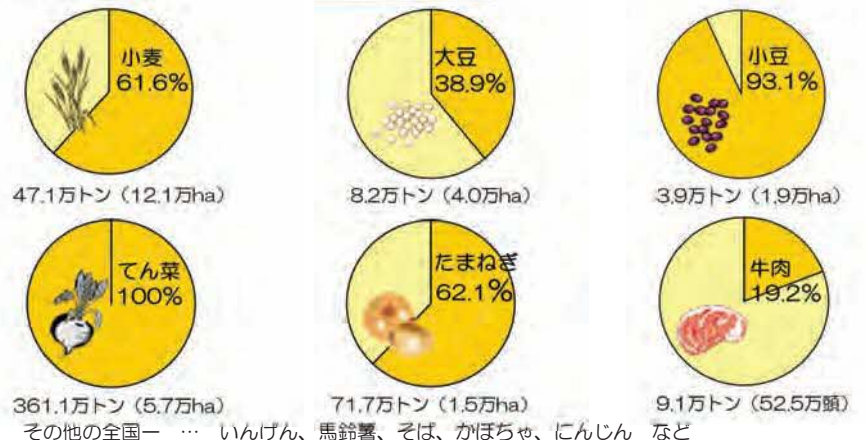
北海道は明治2年（1869年）の開拓当初は、農業に向かない不毛の大地でしたが、先人たちの努力や農業農村整備を大々的に取り組んだ結果、わずか100年ちょっとで日本最大の農業地帯として生まれ変わりました。

北海道の農業産出額及び全国シェアの推移



ここ数年、北海道の農業産出額は約1兆円、全国シェア13%前後で推移しています。なお、この農業産出額と全国シェアは全国一位となっています。

生産量で北海道が全国一の主な農水産物

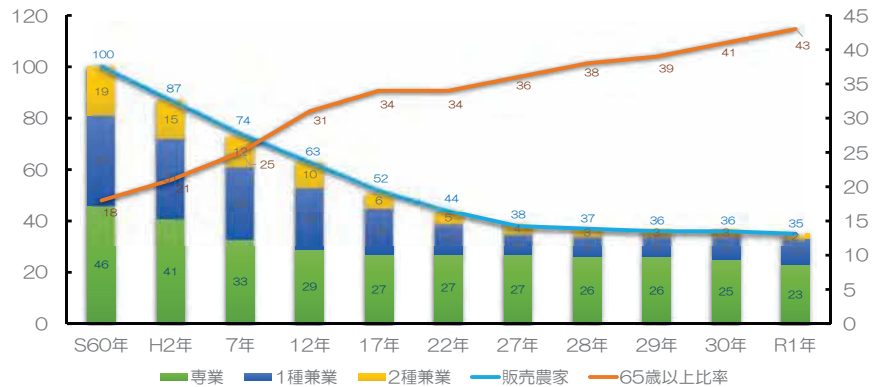


北海道の農業・農村の抱える問題

北海道の農業・農村では課題が山積

北海道の農業・農村は、都府県と比べ、専門的で大規模な農業が展開されており、日本最大の食料供給地域として日本の「食」を支えるという重要な役割を担うまでになっていますが、そのような北海道でも、様々な問題を抱えています。

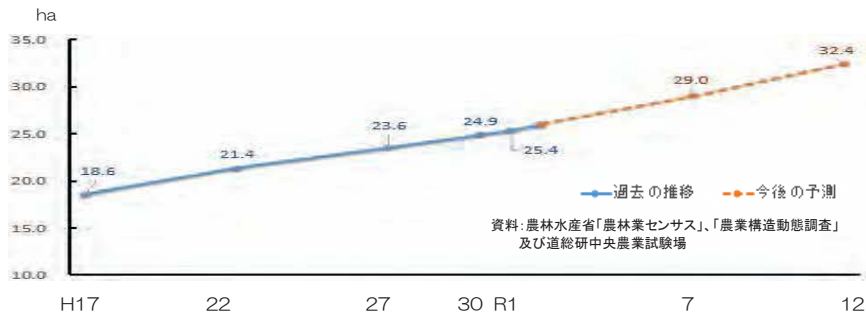
北海道の農家戸数と65歳以上比率の推移



資料：農林水産省「世界農林業センサス」、「農林業センサス」、「農業構造動態調査」

農家戸数は年々減り続ける一方、65歳以上の割合は増え続け、現在は3人に1人の農家が65歳以上となっています。

販売農家の農家1戸あたりの経営耕地面積の推移



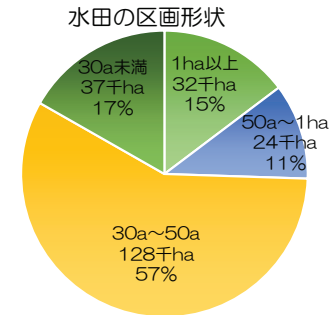
資料：農林水産省「農林業センサス」、「農業構造動態調査」及び道総研中央農業試験場

販売農家の農家1戸あたりの経営耕地面積は、過去10年間で3割以上増加し、今後も増え続けると予想されています。大規模化に対応するためには、より一層の営農の効率化が必要となります。

北海道の農業・農村の地域毎に抱える問題

水田地帯の基盤整備の現状①

北海道の水田は、大規模なものを想像しがちですが、実は1ha以上は全体の15%に過ぎず、0.5ha未満の小区画の水田が74%を占めています。



区画が小さく不整形で作業効率が悪いほ場

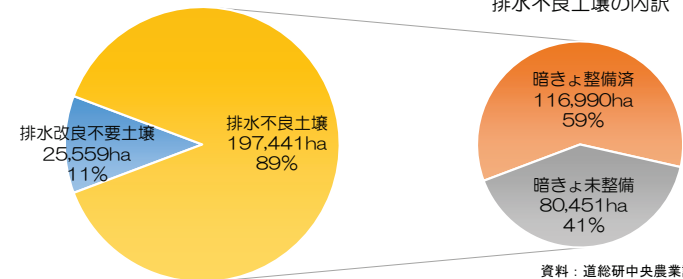
資料：農林水産省「農業生産基盤情報基礎調査 (H29実績)」による道推計値

➡ 水田の大区画化を推進し、より一層の営農の効率化を図る必要があります。

「育てる作業を楽ちんにしよう！」へ

排水不良土壌（約20万ha）のうち、約4割が暗きょ排水未整備ほ場で、約6割が暗きょ排水は整備したものの、経年劣化などにより機能が低下してしまったほ場です。

水田の排水不良土壌の面積と割合



資料：道総研中央農業試験場「地力保全基礎調査」

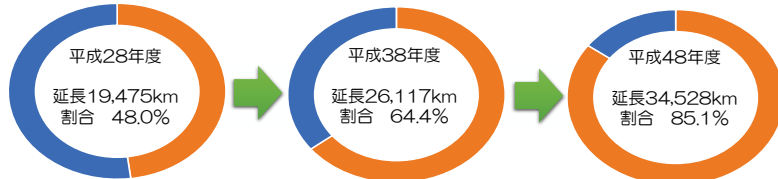
➡ 排水不良土壌に対応するため暗渠排水の整備を推進する必要があります

「でも、水が多すぎると・・・？」へ

北海道の農業・農村の地域毎に抱える問題

水田地帯の基盤整備の現状②

国営・道営事業などにより、H27年度時点では約4.1万kmの用水路等を整備していますが、H28年度には約5割にあたる約2.0万kmが耐用年数を超過しています。耐用年数を超過した用水路等は今後も増え続け、施設の機能低下が問題となっています。



側壁を丸太で支える用水路



経年劣化により連結ブロックが波打った排水路

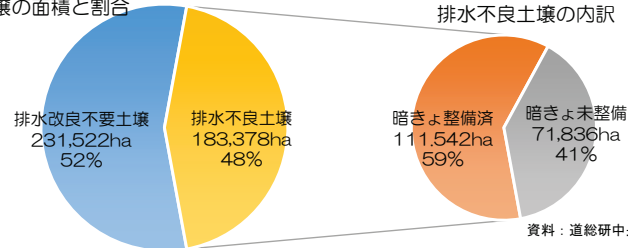
→ **ストックマネジメント手法を用いて施設の長寿命化を図るなど戦略的な保全管理を推進する必要があります**

「既存施設の有効活用や長寿命化を図る取組」へ

畑地帯の基盤整備の現状①

オホーツク・十勝管内を中心とした畑地帯（約41万ha）のうち、排水不良土壌は約5割を占め、そのうち約4割が暗渠排水が未整備となっています。排水不良のほ場では、近年の異常気象に伴う冷湿害などの気象災害が多く発生しています。

畑地の排水不良土壌の面積と割合



→ **排水不良土壌に対応するため暗渠排水の整備を推進する必要があります**

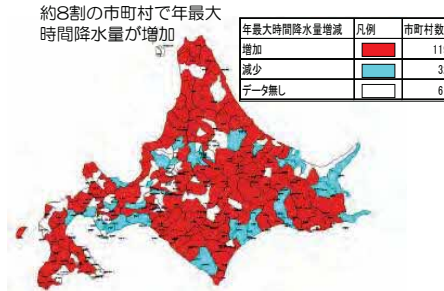
「でも、水が多すぎると・・・？」へ

北海道の農業・農村の地域毎に抱える問題

畑地帯の基盤整備の現状②

近年のゲリラ豪雨の増加により農地の湛水被害が増加しています。

年最大時間降水量の変動
(1993年以前と1994年以降の比較)



集中豪雨による冠水状況

資料：北海道農政部調べ (H22)

→ **排水路を再整備する必要があります**

「でも、水が多すぎると・・・？」へ

畑地かんがいの整備を予定している農地6.0万haのうち、フル整備（散水できる状態）が完了しているのは2.0万haであり、未だに7割弱で整備が必要な状況となっています。

リールマシンによる畑への散水状況



→ **干ばつの農作物被害のリスクを回避するためにも、畑地かんがいの整備を推進する必要があります**

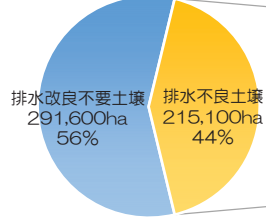
「そして、水も必要だよネ！」へ

北海道の農業・農村の地域毎に抱える問題

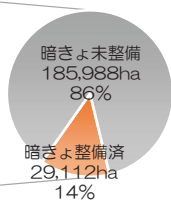
酪農地帯の基盤整備の現状

酪農地帯では乳牛の食料となる牧草を作付けしており、放牧地や採草地として利用されていますが、栄養価が低く牛も好まない雑草が繁茂しているほ場もあり、その原因の一つが排水不良であると言われています。

草地の排水不良土壌の面積と割合



左記排水不良土壌の内訳



雑草が繁茂する草地

資料：道総研中央農業試験場「地力保全基礎調査」

➡ 雑草の侵入要因といわれている排水不良を解消するためには「暗きょ排水」の整備が効果的です

「でも、水が多すぎると・・・？」へ

1戸当たりの乳用牛飼育頭数は増加し続けており、平成2年の56.5頭から令和2年には140.6頭と約2.5倍になりました。乳用牛飼育の規模拡大により、営農用水やふん尿処理等の既存施設的能力不足が懸念されています。



➡ 営農用水や糞尿処理施設などの畜産環境の整備を推進する必要があります

「農業にはきれいな水が必要です」へ